

# 就職特集



## 沖山洋子

育友会監査役  
文学部2年女子の母



## 本多英夫

育友会長  
商学部4年男子の父



## 鹿島絢子

商学部マーケティング学科4年  
内定先：株式会社ゆうちょ銀行

神奈川県川崎市で家族と暮らす。ゼミナールではマーケットの分析を行う。サークルには所属せず、洋菓子店で接客のアルバイトを4年間続けている。



## 湯澤泰輝

法学部法律学科4年  
内定先：日本水産株式会社

長野県諏訪郡出身。東京で一人暮らし。ゼミナールでは労働法の解雇問題について研究。野球サークルではキャプテンを務めた。居酒屋アルバイトは4年目。

## Part 1 座談会

# 就活を終えた学生に聞く 親の素朴な疑問

親にとっては、わからないことの多い就職活動。そのモヤモヤを一掃するため、就職活動を終えた4年生に参加いただき座談会を開催しました。ご父母・保護者を代表するのは本多英夫育友会長、沖山洋子育友会監査役。一人暮らしをする男子学生と、自宅から通う女子学生の二人に率直に聞いてみました。

### ■自分なりの軸をもって会社を選ぶ

—業界や会社はどのように選びましたか。

**鹿島**：私は自分が成長していけるかということを軸にしました。専門的な知識を身に付けて、何かあっても家族を守っていけるような職に就いてほしいという父の助言も大きかったです。それで金融業界に

絞り、その中から自分に合っている会社を選びました。

**本多**：どういう点で、自分に合っている会社だと判断したのですか。

**鹿島**：ほかの大手金融機関は落とすための面接という感じでしたが、内定先は学生一人一人のいい部分を引き出そうとしてくれて好印象でした。それと、

店舗訪問したとき、接客の様子に温かみを感じられたのが決め手でした。

**湯澤**：私は3年次まで公務員試験の勉強を続けていて、エントリーの始まる3月1日まで民間企業か公務員かで迷っていました。両立も考えましたが、いま思えばあのときに腹をくくって、民間企業一本に絞ってよかったと思っています。

**沖山**：両立は難しいのですか。

**湯澤**：公務員試験は専門科目と一般教養があつて範囲が広く、膨大な量の勉強をしなければならないので、難しいと思います。

**沖山**：志望した企業は、大学の説明会や就職課で紹介された中から選んだのですか。それとも自分で独自に探しましたか。

**鹿島**：学内企業説明会だったり、マイナビ、リクナビという就活サイトで自分の希望業界や職種で検索したり、あと学外の合同企業説明会を回ったりして情報を集めました。

**湯澤**：私も同じです。それと『業界地図』といった書籍を見て、知った会社もあります。

## ■就職課と二人三脚で エントリーシートを作成

—自己分析はどのように進めましたか。

**湯澤**：自分自身を分析するのって、恥ずかしい面もあるし、どうしても自分をよく見せようという思いが出てしまって難しい。自己分析については、就職課の方と二人三脚でやりました。

**本多**：自己分析のやり方やツールみたいなものがあるのですか。

**湯澤**：“他己分析”とあって、自分だけでなく人の意見を参考にしました。サークルの後輩一人一人に自分がどんな人間か聞いたりもしました。

**鹿島**：私の場合は、家族や祖父母とも話して、幅広い年齢の方の意見を参考にしました。それと、就職活動中も気分転換を兼ねてアルバイトは続けていたので、アルバイトを通して接客業の好きなおところや、仕事をするうえで何を大切にしたいかということを考えてみました。

—エントリーシートで落とされることはなかったのですか。

**鹿島**：就職課の指導のお陰で、エントリーシートで落とされることはほとんどなかったです。学生は自分が成功した話をアピールしたいと思いがちですが、面接官が聞きたいのは失敗してそれをどう乗り越えたかということだというアドバイスがありました。

**湯澤**：私も就職課の方に見ていただいていたので、エントリーシートではほとんど落とされませんでした。エントリーシートに書いたことを、面接で突っ込んで聞かれることもありましたが、全て裏付けができていたので段取りよく答えることができました。

**本多**：エントリーシートの書き方の指導をしてくれると同時に、こういう質問があるかもねと模擬面接のようなこともしてくれたのですね。

**湯澤**：はい。エントリーシートに書いたことは、なぜそうだったのか理由も考えておいた方がいいと指導されました。就職課の個別相談のお陰で、短期間でエントリーシートから面接対策までできました。

## ■「楽しかった？」のメッセージに 救われた

—就職活動がうまくいかないときはどう乗り越えましたか。

**湯澤**：面接が2次3次と進むと、手応えはあっても落とされることがあつて、何がいけなかったのかわからなくて悩みました。そういうときは野球サークルで汗を流してリフレッシュして、また頑張ろうと思いました。

**沖山**：ご両親には相談されましたか。

**湯澤**：母親からは、最近どう？といった連絡をよくもらっていました。こちらを気遣ってくれてか、食べ物などの荷物が届いたりして、さり気ない励ましが嬉しかったですね。

**鹿島**：私は就職活動中も親が普段通りに接してくれたのが嬉しかったです。それと、ある日、面接が終わって家族にLINEしたら、「楽しかった？」って聞かれて。あそっか、楽しめばいいんだって気付きました。

**沖山**：自分だったら、「どうだった？」って聞いちゃいそう（笑）。

## ■正直に話して評価されないなら 縁がない

**本多**：面接で厳しい質問はなかったのですか。

**鹿島**：「面接官のことを敵だと思っているだろう」と言われた会社もありました。圧迫面接だったのかもしれませんが、そのときは自分が思っていることを正直に伝えました。面接は思っていることを正直に話して、それで評価されないなら縁がないものと割り切っていました。

**湯澤**：私は人見知りな部分があつて、「体育会系なのに大人しいね」と言われたことがありました。あと、



イレギュラーな質問で、「あなたを食べ物に例えると何ですか」と聞かれて困ったことがあります。そのときは、たまたま前日に行ったスーパーでもやしが安売りしていたのが頭に残っていて、もやして答えました（一同笑）。面接官も、えって意外な顔して。自分はコストパフォーマンスが高く、どんな食材の中に入ってもシャキってしていると説明しました。それ以来、なんだか気持ちに余裕を持って面接に取り組めました。

## ■履歴書はコピーを取っておく

—就職活動で失敗したことはありますか。

**鹿島**：私はすごく方向音痴で毎回迷ってました。スマホを左手、地図を右手に持ってもたどり着けない。

**冲山**：一緒です。駅の出口を出たときにどっちを向いているかがわからない（笑）。

**鹿島**：だから常に早めに出かけるようにして、道がわからないときは、すぐ人に聞くようにしました。それで見知らぬ人と話す度胸が鍛えられました。あと雨の日にすべって転んでしまって、手に持っていた受付票が濡れてしまったことがあって。それから受付票は必ず2枚印刷して別々のファイルに入れて持ち歩きました。履歴書も必ずコピーを取るようになりました。

**本多**：ちょっとしたノウハウですね。

**鹿島**：履歴書のコピーがあると、選考が進んだ後、自分が何を書いたかわかるという利点もあります。

**本多**：筆記試験は、どの企業でもありましたか。

**鹿島**：ありました。SPIと性格診断を合わせたようなウェブテストが多かったです。性格診断は何回かやっている、その業界ではどういう人材を求めて

いるのか大体わかってくるので、その点を考えながら、一貫性を持たせて回答しました。

**本多**：だから業界を絞ったほうがいいといわれるんですね。絞ってないとそういう判断は難しい。

## ■インターンシップで意識が変わった

**冲山**：湯澤さんは法学部ですが法律関係の企業を探すということはなかったですか。

**湯澤**：なかったですね。会社に入ったら営業職になりますが、営業するうえで、学んだ法律の知識があれば強みになると思っています。

**冲山**：娘は文学部歴史学科で直接就職に結びつくような学問ではありませんが、学部によって就職活動の違いはありますか。

**鹿島**：学部による違いはあまり感じませんでした。アルバイトやサークルでの経験をアピールできれば大丈夫かと思います。

**冲山**：娘は2年生で、まだまだ先のように思っていますが、お二人はいつから就職を意識したのですか。

**鹿島**：私は3年生の夏に金融機関でのインターンシップに参加して、そこで7日間がほんとに厳しくて、それで社会人と学生の違いにも気づき、意識が変わりました。朝8時50分に会社のロビーに集合して私語厳禁で一列に並び、昼も社員食堂で無言で30分で食べて、座学や実習を行うといった感じでした。働くってこういうことなんだと。そのとき、満員電車にも初めて乗って、大変だなんて。もうちょっとお父さんのこと大切にしてあげようって思いました（一同笑）。

**湯澤**：私も地元の長野の企業でインターンシップを

しました。まだそのときは、公務員になるか、東京で就職するかいろいろと迷っていて、墓づくりをしている家業を継ぐという選択肢もありましたが、父には中途半端な気持ちでやるくらいなら家は継がせないと、ピシッと言われました。

**本多：**生半可な気持ちではやらせないという、お父さんの気持ちはよくわかりますね。

## ■親は口出しせずに、少し気にして

—後輩へのアドバイスはありますか。

**湯澤：**サークルの後輩にも、ほかの人が遊んでいるうちに苦労しておけば、後々苦労しなくて済むと言っています。私はのんびりしていて、就職課の就職合宿やSPI対策講座を知ったのは締め切りの後でした。早い段階でアンテナを張っておけばもっと就職活動も幅広くできたかなと思っています。

**鹿島：**いろんな方と話をするようにアドバイスしたいです。私はセミナーでは周りの学生に話しかけ、企業の方にも必ず質問をするようにしていました。祖父母や親戚のおじさんなど、社会人の先輩と話すことでも、働くことに対する考えが深まり、社会への視野が広がりました。

—そもそも就職活動に親の口出しは必要だと思いますか。

**湯澤：**親にはあまり口を出してほしくないという思いもありますが、全く関心を持ってもらえないのも、それはそれで寂しいと思います。親元を離れて東京に出てきている友達の中には全てを抱え込んで鬱っぽくなってしまった人もいます。特に一人暮らしをしている学生に対しては、たまに元気になっているかと連絡をしてもらえるといいかなと。自分自身も親から連絡をもらえると、非常に元気づけられましたので。

**鹿島：**私は親からあしなさい、こうしなさいと言われたことはなくて、親が信じていてくれるということを感じていました。でも、たまにアドバイスをしてくれることがあって、母からは性別関係なく働ける職場がいいと言われて、参考になりました。

**冲山：**親としては、どうなってるの？って、ついつい口出ししてしまいますね。

**鹿島：**それはそれで、いいと思います。

**本多：**家内は、どうした、どうしたって聞いていたけど、息子はほとんど話してくれなくて、親は状況がわかりませんでした。子供は子供なりに考えているから尊重してあげないといけないと思うし、言いたい気持ちもあるし、その狭間ですね。

## ■将来に向けて

—鹿島さんと湯澤さんの将来の夢についてお聞かせいただけますか。

**鹿島：**卒業前に1カ月間、オーストラリアに留学をします。そこで自分の視野を広げたいと思います。将来的には、結婚して両親のように楽しい家庭を築きたいです。休みも取りやすい会社だと聞いていますので、家族との時間を大切にしたいです。

**湯澤：**将来の夢は明確ではないですが、任された仕事をしっかりとやりたいです。仕事を通して、魚食文化を海外に広めていけたらいいなと思っています。

—本多さん、冲山さんからは社会人の先輩としてアドバイスをお願いします。

**本多：**私も専修大学の出身で、商学部商業学科を卒業しました。就職したメーカーではマーケティングをやりたいと思っていたのですが、配属されたのは経理部でした。そこからいくつか会社を変わっているのですが、ずっと経理畑で仕事してきました。

たまたまかもしれないけど経理に配属されて、若い頃は怒られながらやってきて、それが自分のキャリアにつながっています。腹をくくってやってきて、それがよかったなと思っています。皆さんもやりたいこととは違う仕事を任されるかもしれませんが、何年かすると身に付くものが出てきて、一つのキャリアになっていくものと思います。

**冲山：**お二人の話を聞いてきて、自分の考えを持っていて前向きなのがいいと思いました。でも社会に出ると人間関係で悩むこともあるかと思っています。会社に入れば、嫌な人でも机を並べていれば話さないわけにはいかない。大人は感情だけで動いてはだめで、自分の感情を抑えて相手と折り合っていくことが大切です。そこで、アフターファイブには、仲のいい友達と発散したり、趣味に没頭したり、自分自身で心のケアをしていかれたらいいかと思います。

### ◇感想◇

**本多：**本当にお二人がしっかりとした考えを持っていて、素晴らしいと思いました。今日は、親御さんにいいアドバイスになるお話を聞けたかなと思います。

**冲山：**私自身いい母親になろうという意識が強すぎて、あれこれ口出ししてしまうときがあります。就職活動ではさり気なく普段通りにやっていこうと思います。